

狛江市下水道総合計画市民説明会

- **日 時** 平成 21 年 7 月 5 日（日） AM10：00～ 11：30
 - **場 所** 中央公民館 2F 講義室
 - **出席者** 狛江市建設環境部上下水道課・石原課長、西村係長、遠藤主査、岩崎主任
市民 2 名、業務委託事業者 1 名
 - **議 題** 狛江市下水道総合計画（素案）の内容について
 - **資 料** 狛江市下水道総合計画（素案）
-

西村係長の司会のもと、石原課長から冒頭あいさつがあり、岩崎主任から狛江市下水道総合計画（素案）の内容について、項目（目次）に沿って説明があった。

説明に対する主な質疑応答は、次のとおりである。

(1) 計画の背景と目的について

市 民：短期計画から中長期計画まで策定する下水道総合計画は、今回初めて策定する計画なのか。平成 16 年度に策定された合流改善計画も含めた計画にとらえて良いか。

狛江市：今回初めて策定する計画であり、合流改善計画も含めた個別の下水道計画を集約し、まとめたものである。

市 民：合流汚水と分流汚水は、最終的に一緒になって森ヶ崎水再生センターに流入するのか。

狛江市：接続点は違うが、最終的には一緒になって、森ヶ崎水再生センターに流入する。

(2) 基本理念および目指す姿について

市 民：野川は、50mm/hr 対応で整備されているのか。それ以上の豪雨、例えば 100mm/hr 対応でも整備されるのか。

狛江市：基本的に 50mm/hr 対応を目標としているが、まだすべてが整備されていない状況にある。

市 民：50mm/hr も含む集中豪雨時に、合流式下水道からの越流水が頻発することが予想されるが、どの程度の降雨まで対応可能なのか。

狛江市：合流式下水道からの越流水は、降雨量にかかわらず、汚水処理量以上の合流雨水が放流されるものであり、野川の 50mm/hr 整備と分けて考えるものである。

市 民：管渠のテレビカメラ調査の診断結果により、不良管渠への対応を判断しているのか。

狛江市：結果をみて個別に対応している。

市 民：調査の頻度は、どのように決めているのか

狛江市：頻度は決まっていないが、昨年までに本管のすべてを調査しており、補修も終えている。

現在は、取付管に対して調査・補修を行っているところであり、今後は再度、本管を調査し補修等の対応を行う予定である。

市 民：継手ずれ等による漏洩は、どのように検知しているのか。

狛江市：地下水位が高く、継手ずれがあれば、逆に地下水が入ってくるため、目視で確認できる。

(3) 施策について

市 民：下水道は、市による経営なのか。

狛江市：市で管理するとともに、都に下水処理費を支払った上で経営している。

市 民：都に支払っている下水処理費は、全体の費用のどのくらいを占めているのか。

狛江市：下水処理費は年間約 4 億円、使用料収入は年間約 8 億円であり、下水処理費が約半分以上を占めている。

市 民：下水処理費は、各自治体の面積按分で決まるのか。

狛江市：下水処理場への総流入水量から総有収水量を差し引いた不明水量を各自治体の面積按分から算出し、それと有収水量を合算して決定している。

市 民：不明水があるということは、雨水浸透ますを設置しても、必ずしも下水道への負荷軽減につながらないと思うがどうか。

狛江市：下水道に流入する雨水が減少して処理費が軽減することにもつながり、設置効果があると考えている。

(4) 総合計画について

市 民：合流改善対策が、中期計画にないように見える。施策計画については、一覧表で示さないと流れがわかりにくい。

狛江市：中期計画の合流改善対策は、「水資源としての循環と利用」の「雨水浸透施設の整備」に含まれている。一覧表は、そのとおり作成する。

市 民：貯留管は、何箇所くらい設置されているのか。それ以外の施策についても、短期・中期・長期でどれだけの対策量であるか、一覧でわかるようにしてもらいたい。

狛江市：貯留管は、まだ設置されていない。一覧表については工夫する。

以上